研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-139		20-422	独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 真栄里仁/松下幸生

題名（原題／訳）

Smoke, alcohol and drug addiction and female fertility
喫煙、飲酒、薬物依存と女性の受胎能力

執筆者

de Angelis C, Nardone A, Garifalos F, Pivonello C, Sansone A, Conforti A, Di Dato C, Sirico F, Alviggi C, Isidori A, Colao A, Pivonello R.

掲載誌

Reprod Biol Endocrinol. 2020 Mar 12;18(1):21. doi: 10.1186/s12958-020-0567-7.

キーワード	PMID
喫煙、アルコール、薬物、女性受胎能力、生殖、卵巣、子宮、多嚢胞性卵巣症候群、子宮内膜症	32164734

要　旨

背景：女性の受胎能力について重大な影響を与える不適切な生活習慣や、不健康な習慣などの予防できる要因について関心が集まってきている。喫煙、飲酒、依存性薬物の使用は、広範囲な疾患が促進され、悪化する可能性があることを考慮すると、大きな問題である。出生前の暴露による妊娠や胎児への特徴的な影響にも関わらず、出産可能年齢の女性のかなりの割合が、いまだにこれらの習慣に関連している。現在、喫煙や飲酒、依存性薬物が女性の受胎能力に与える影響、なかでも標的や発症機序については、適切に計画された研究が殆どないため、殆ど分かっておらず、議論もされていない。

目的：このレビューでは、女性の受胎能力に対する、喫煙、アルコール、依存性薬物の影響に関連した臨床研究や実験研究の包括的なレビューを行うことを目的としている。卵巣、卵管や子宮、特に卵巣予備能、ステロイド産生、排卵、月経周期、卵管機能、子宮の受容性、着床などの主要エンドポイントへの影響によるものも含めている。多嚢胞性卵巣症候群、子宮内膜症についても簡潔に触れている。

方法：Pubmed で、選択されたキーワードを用いて、それぞれの著者ごとに引用した文献を検索した。発行年には制限を設けなかった。英語以外の言語は除外した。選択した原稿の中の引用文献リストから追加で文献を引用した。

結果&結論：現在のところ、喫煙やアルコール、依存性薬物の女性の受胎能力に対する有害な影響の影響のエビデンスの多くは動物実験によるものである。全体的に、喫煙に関する臨床研究は、喫煙による受胎能力の低下を示唆しているが、因果関係については今後の課題となっている。飲酒による受胎能力に関する研究では、相反する結果となっているが、多くは関係が認められないとなっている。依存性薬物に関する研究は極めてまれだが、多数の薬物摂取のために、一つの薬物の特定の効果について述べることは困難となっている。